

## 授業方法について独自に工夫していること

- ・毎回、ミニツツペーパーを書かせ、次回授業のときに復習を兼ねて8人程度取り上げ、全体で質問等を共有している。
- ・PPTのスライドに、教員採用試験も意識して「まとめ」の部分をつくり、復習として学生自身に穴埋めを回答させている。
- ・授業の末尾に5～10分程度、必ずグループで討議する時間を設け、その後全体で共有している。
- ・アクティブラーニングとして、ワールド・カフェとOSTの手法を用いて、15回中2回ほど議論・発表をさせている。
- ・レポートは、評価とコメントをつけて全員に返却しており、それを授業でも活用している。
- ・視覚的理解させるため、映像資料を多く用いている。

- ・どの授業においても、学生に資料を配布するだけでなく、授業内容に関係する映像や実践的研究を紹介し、学習内容の定着を図った。
- ・個人的に親しみを感じてもらえるように、臨床実践でのエピソードなどを開示した。
- ・遅刻を予防するために、あらかじめルールを設定していた(3回遅刻で1回休み)。

教員採用試験に関係するキーワードを含んだ内容を扱っている。

受講生の講義へのモチベーションを喚起するような内容をできるだけ用意した。  
受講生が講義に対して受け身にならないように、ワーク課題等を導入して、できるだけ主体的に取り組めるように配慮をした。

補助プリントの作成・配布。  
新聞記事や各種統計の活用。

授業で使用するパワーポイントは、印刷して配布している。  
講義終了後に、授業に関する課題コメント・感想を書かせている。

15回の授業内容がバラバラにならないように、一つのテーマを複数回で学んでいく構成にしている。前回の授業内容が今回の授業内容にも出てくる、という構成にしていくことで、重要な内容を単発の授業で覚えて終わり…ということにならないように心がけている。  
また、小グループの活動をなるべく取り入れるようにしている。必ず全員が発言し、レスポンスするように、討議するテーマについての内容をプリントに書き込み、考えを整理させた上で、グループ討論の時間を設定する。

- ・ゼリーを使った味覚実験、ストローを使った古典的条件付け実験、新聞紙を使った構成的グループエンカウンターなど毎回の授業にテーマに沿った実習を入れることで学生の内発的動機づけを高める工夫をしている。
- ・授業の最後に毎回「リアクションシート」を配布している。これを踏まえ、次回の授業ではプレゼンテーションソフトを使い学生の質問に回答し、双方向の授業を心がけている。
- ・受講生の学生時代の「生徒手帳」を持参してもらい、校則についてのグループワークを行うなどの実習を行うなど、学生が主体的に考える授業作りを行っている。

オリエンテーションを含め、毎回の授業で全15回の流れを示し、各回の位置づけを示している。また、各回の内容について構造的に表したものを使いながら、1時間の流れを説明してから授業に入っている。  
講義の内容に関しては毎回スライドの出力を配布し、スライドを書き写すといった手の運動はせず、講義の要点や例えとしてあげた事柄を書き取ることで深い理解を行うよう求めている。  
講義の最後には振り返りシートの提出を求めているが、単なる感想は受け付けず、講義を聴きながら一歩進んで考えたことや、発展的な疑問として浮かんだことを書くよう求めている。特に、講義が聴き終わってから思考をはじめめることを戒めている。

教員養成に関わる科目であることから、教員として受講生が、今後関わっていく学校について職業として教員という視点にとどまらず、様々な角度から学校教育の本質に迫れるように毎回の授業テーマを工夫した。

どの保育活動を説明する時も、保育内容は幼稚園や保育所では領域をもとにまとめられているのではなく、総合的に指導なされていることを、その都度説明するようにしている。

また、保育内容環境には直接関係ないが、幼稚園では5領域、保育所では5領域に加え養護の内容が加わることを常に説明に加えるようにしている。

授業には、実際に保育現場で行われていることを具体的に取り入れるようにし、学生がより興味をもって授業に取り組めるようにしている。

教科書、参考書を紹介し、自主学習に取り組めるように配慮している。

・学生さんが主体的・協同的に学ぶことができるように、4人一組で班を作り、生活科の理論と実践の資料をもとにして、少人数での班の討議や、発表・板書・司会等の役割分担しながら全体での発表など、参加型の授業になるように工夫している。

・生活科の理論と共に、実践事例を通して、生活科についてのイメージがわくような資料の準備を心がけている。

・春の野の探検、スケッチ、大学生生活を支えてくれる人へのインタビューなど、体験型の授業を取り入れるように工夫している。

学年次応じて、また現在トピックになっている教育課程編成上の諸課題や現状を教科の視点を踏まえつつ取り上げていること。たとえば、今期は4年生の初等中等英語・美術・教育科学の学生から構成された授業であったため、現在進行中のH29年度版(見込み)学習指導要領改訂のプロセスやHP上にアップされた資料を紹介し、卒業後に本格的に作業が進む指導要領改訂への意識が高まるように工夫した。特に、それらの中に生活科がどのように取り上げられているかに言及した。

受講人数は50人以上と多かったが、できる限りグループ活動(話し合い、単元構想、指導案作成、模擬授業等)を取り入れたアクティブラーニングを目指した。結果、個々の学生が積極的に記述や発言を行い、意見の還流ができたのではないかと感じる。

・学生に能動的・協働的な学修をさせ、さらに表現力を高めるため、フィールドワークや調査活動の後、パワーポイントやその他の表現方法(模造紙、リーフレット、パンフレット等)により、グループ毎に全員にプレゼンをさせる機会を2回は設けた。2回というのは、1回目のプレゼンの改善や向上をめざし、より内容を高度にするためである。

・思考力・判断力を高めるために授業での課題に対する発言やレポート作成にも力を入れた。また、タイムリーな話題についても授業の頭で触れ、自分の考えを話すようにさせた。

・学生が聞くだけにとどまらないよう、講義の時はできるだけ指名してでも話させるようにし、ノートの記入もこまめにさせるようプリントを工夫した。

パワーポイントの資料を見やすいように工夫している。

授業内容に関連する心理テストや、資料映像をできるだけ取り入れるようにしている。

授業で学んだ知識を応用し、教育の意義や目的について自らの意見を述べることを目指して、毎授業時にグループ・ディスカッションを取り入れている。各回のディスカッションでは、その日の授業で感じた疑問点を明確にし、授業内容をまとめ、また、授業内容を定着させることができるようなテーマを提示している。その上で、論理的思考力をアップさせるためにもディスカッションで行った意見交換を各自がまとめ、リアクションペーパーに記入し毎授業終了時に提出させています。特に、授業参加が受動的にならぬよう心がけながら、各授業で得た知識を、各自がおかれた状況に対して速やかに応用できるような、高度なリテラシーの育成につながる授業展開を心がけています。

テキストを用いることにより、教育実習や就職活動で授業を欠席せざるを得ない場合にも、学生が授業についていけるようにした。理念や基礎的思考方を教科書から学び、その発展をわかりやすいようにパワーポイントや印刷教材で補完した。さらに、理論や基礎的項目だけではなく、時事的社会・教育問題を紹介し、実践的解決場面などや現場での取り組みをDVD等で示すことにより、基礎から発展、応用、学校現場臨床までをも網羅する授業構成にして、多角的な情報・知識・問題解決方法を学生に提供した。また、随所に、学生同士の意見交換や発表などの活動、教員と学生の交流等で、学生の意見をくみとると同時に、教員と学生間でコメント用紙を毎回やりとりすることにより、質問疑問等には、翌週に回答し、疑問の解消およびより深い学びへと導き、集団授業ではあったけれど、学生との交流を重視した授業展開を行った。ただ、一部の学生諸君には、特別支援教育に特化しておこなわれる授業ではないことと、これら豊富な授業要素と教材と活動が与えられていることをもって自覚させるべきであった。

自然体験を中核に据え、特に、小学校の生活科の授業で、必ず行われ、一番多くの授業時間がさかれている栽培活動について、自然観察実習園の畑を借用して、体験を主に実施している。

コメントカードのいくつかの意見をプリントに印刷して次回の講義で配布している  
講義中にできるだけ講義室内を回り学生の声をフォーマル、インフォーマルに聞くようにしている  
講義中にできるだけペアワーク(問いを投げかけて話し合わせ、発表させる)を取り入れている

子ども同士の人間関係の発達や変化に関する基本的な知識と事例検討だけではなく、保育者が子どもの人間関係に与える影響について教示することも重視している。また、子どもが感じているであろう、素直で素朴な感情を追体験するためのワークを取り入れ、具体的な子ども理解の一助としている。

授業の目標である子どもの発達について最新の知識を取り入れ、パワーポイントなどによってできるだけ具体的に理解できるように配慮した。また、教師の学級経営に関して、リーダーシップの要点を押さえるために、リーダーシップ理論に基づく評定を行った。さらに、生徒や自己の理解を深めるためのパーソナリティ検査を一人一人に実施してもらうことにより、人を理解する方法と実際の手法に触れてもらうように工夫した。  
一方、授業の進行過程においては、教師から学生への一方的な話にならないようにするために各授業の中で学生が考え、発言してもらう中でディスカッションに近い形式も取り入れ学生が主体的に参加できるように配慮した。

- ・心理学の基礎的な理論を、学校教育の具体例と結びつけて説明するように工夫した。
- ・パズル形式で心理学を体験してもらったり、グループワークを取り入れて集団過程を体験させた。

生活科についていろいろな面から紹介し、個々の学生それぞれの興味のあるところから、生活科について考えることができるようにと思っています。聞くだけでなく、視覚に訴えたり、実際に活動することも重視しています。

授業中のなかで、授業の内容に関するディベートをおこない、学生同士の討論を行うようにしている。授業の後に、まとめの小レポート書かせている。

- ・学生にとって、話を聞くだけでなく思考する授業になるよう、グループワークや反転授業などの形式を取り入れた。
- ・当初の授業デザインどおりにただ授業を遂行するのではなく、学生の反応を観察したり、声を聞いたりにして、授業を微修正しながら進めた。

なるべく学生どうしの話し合いと発表を入れるようにしています。

- ・グループワークを多く取り入れるように授業構成を考えた。
- ・グループ分けをする際に、毎回同じメンバーにならぬように、また、同じ専攻の学生ばかり集まることがないように配慮した。

本授業は、具体的な活動や体験を通じた栽培活動(野菜を育てる)が主な活動である。実際に学生が畑を耕し畝を作り野菜の世話をしますが、天候による変更や、自然観察園での草花遊び、観察やしおりづくりなどを行い、活動の幅を広げている。

- ・学校心理学や発達臨床心理学の理論・方法論の紹介
- ・事例の紹介および検討,
- ・小説を題材にした課題の設定

- ・講義内ですべて知識を伝えるのではなく、学生が自ら自宅で調べられるようなキーワードを挙げるよう心掛けている
- ・自ら考え、発言できる場を積極的に設けると共に、他者の発言との交流を通じて考えがより深まるという体験を複数回できるようグループワークを多く入れている。
- ・これまでに学習した内容を想起しながら、それと今回の学習がどのように結びついているのか考える場を意識的に設けている。

できるだけ毎回、小テストを行い、その回の理解度を確認するようにしている(必要に応じて次回に補足説明をする)。  
知識を問うものではなく、知識を活用するような課題を行うようにしている(特に最終課題)。